

◆ 歌詞の意味 ◆ Junko Higasa []内は私のコメント

【亀井繁男さんというシャンソン・フランセーズを応援する人がいた。これは彼の HP「亀さんのシャンソン丸かじりページ」に 2005～2007 年に書いたエッセイから抜粋・加筆したものです】
* 同じタイトルで違う歌があるので、その場合は歌手の名前をご参照ください*

CHANSON BLEUE 青のシャンソン

ジュリエット・グレコ

私は瞳を青くしてもいいわ、あなたが望むなら。どうしてほしいか言って。18 歳にも 20 歳にも 30 歳にもなるわ。あるいは逆に白髪にしてもいいわ。王宮のお姫様にもなるし、あるいは灰色の日々に埋もれてもいい。あなたの望み次第で何にでもなれる私、そして何にもなれない私。自分を汚したり、街の女のようにうろついたり、あるいは迷子のように臆病で裸同然で消えてもいい。あなたの夜を手に入れたいの。つまりあなたのベッドの足元で眠りたいの。私は瞳を青くしてもいいわ、グレーかブルー、好きな方を選んで。私はもっと美しく、もっと醜く、そしてさらに一段と美しく変われるわ。私は全ての人に自分を醜く見せ、あなたのために私の滑らかな肌を守ることができるわ。そしてけがれない幾つもの道を通って、あなたの少年時代へあなたを送っていくの。もしあなたが望むならあなたの誕生の時まで送ってあげる。私ははるか先まで自分を連れて行ってしまおう。はるか先まで。常に自分から最も遠くに。そして私はあなたが思っている通りに相変わらず戻ってくる。よく言われる決まり文句のように「泉は空の色」私は瞳を青くしてもいいわ。もしあなたが望むなら。そもそも、ほら見て、私の瞳は青いの。

[私はあなたの望み通りになれるわ。そしてあなたの望み以外にはならない。でも、よく見て。変わらなくても、私は元からあなたにふさわしくできているの]

A DEMAIN SUR LA LUNE 明日は月の上で

サルバトーレ・アダモ

明日は月の上で、四方の神々のもとで。明日は月の上で、天空の三つの境界で。僕たちを運んでくれる四輪馬車がある。子供の頃の夢を見つけよう。君はそこに自分の姿を認めるだろう。そして僕の可愛い君のために風はマジシャン。シンフォニーを演奏する、たくさんのミュージシャンのように。明日は月の上で！そこで僕たちは地球を見るだろう、クリスマスのボールのように軽やかに揺れる、天の大きな縦の木で。そして放射状の星のように僕たちの髪はなびく、時間通りにヴェールをかぶった空で、たくさんの黄金色の夢の中で、明日は月の上で！風は君を覆う、レースのヴェールで。そして君は眠るだろう、最も美しい夜の中で。僕は、僕は、僕は君を寝かしつけるだろう、君の目覚めを待たせよう、それから君にキスするだろう、太陽の目の前で... 明日は月の上で... 明日は月の上で...

[明日は、二人だけの幸せを味わえる世界が待っている。それは最高に美しい世界だ]

Ave Maria アヴェ・マリア (シューベルト)

ウォルター・スコット (原詩) — アーダム・シュトルク (ドイツ語訳) による

アヴェ・マリア、慈悲深い聖女！一人の乙女の祈りをお聞き届けください。荒々しくそびえ立つ岩壁の中から、私の祈りがあなたのもとへ届きますように。私たちが朝まで安らかに眠れますように、人がたとえどんなに残酷であっても。ああ聖女よ、この乙女の嘆きに目をとめてください。ああ聖母よ、子供の願いをお聞き届けください。アヴェ・マリア！

アヴェ・マリア、けがれなき方！私たちがもしこの岩の上に横たわるとしても、休息の時とあなたのご加護があれば、私たちには堅い岩も柔らかく思えるでしょう。あなたが微笑むと、カビ臭い岩の裂け目にバラの香りが揺れる。ああ聖母よ、子供の切なる願いをお聞き届けください。ああ聖女よ、一人の乙女の叫びを！アヴェ・マリア！

アヴェ・マリア、けがれなき乙女！大地と大気の悪魔を、その情け深い眼差しによって追い払ってください。それらが私たちに近づかないようにしてください。私たちは運命に身をかがめて

慎み深くするでしょう、私たちにあなたの聖なる慰めが吹くならば；この乙女に優美なあなたの身をかがめてください。父のために切に願う子供に対して、アヴェ・マリア！
[逆臣の汚名を負った父と身を隠す娘。どうぞ安心して眠りにつけますように]

LA GOULANTE DU PAUVRE JEAN 哀れなジャン

エディット・ピアフ

ちょっとでいいからお聞きなさい、哀れなジャンの歌を。女たちに愛されないジャンの歌を。でも忘れてはいけませんよ、この世の中には一つの倫理がある：金持ちだろうと一文無しだろうと人はどちらにせよ、恋なしでは全く取るに足りない人間だってこと！全く大した人間じゃないってこと。

彼はその日暮らしの生活をしていて。絹とビロードの中で、彼は窮地に陥って眠っていた。けれど忘れてはいけませんよ：この世の中で私たちの心が常に価値があるなんて全くない、恋なしでは全く取るに足りない人間だってこと！全く大した人間じゃないってこと。

彼は男爵たちの家で食事をし、社交界で踊り、そしてすべての蒸留酒をたしなんだ。けれど忘れてはいけませんよ：あなた方の面白味を分かち合う一人のきれいな女の子に匹敵するものはない。恋なしでは全く取るに足りない人間だってこと！全く大した人間じゃないってこと。

お金を稼ぐことにかけては、彼はすごい泥棒だった。人々は低姿勢で挨拶した。けれど忘れてはいけませんよ：ある日状況は一変して、おまけに投獄される羽目になった。恋なしでは全く取るに足りない人間だってこと！全く大した人間じゃないってこと。

よくお聞きなさい、若い皆さん方。あなた方の若さを活かさない、一度だけしかないその若さを。そして忘れてはいけませんよ：細紐よりはむしろ、その首に抱きつく一人の女性の方が価値がある。恋なしでは全く取るに足りない人間だってこと！全く大した人間じゃないってこと。

それから皆さん方、哀れなジャンの歌はお別れにあなた方に言っている：恋をしなさい！パラム パラム パ ツォワン。

[同じ捕まるなら、首に縄をかけられて牢獄に行くより、彼女の腕に縛られて人生の墓場へ行きなさい。自分だけを愛するより、誰かを愛し、愛されるほうが人間として素晴らしい]

Les chansons commencent 歌が始まる

パトリシア・カース

一人の男と一人の女、ここで再び愛を造り出す。向こうでは他の人たちが離れる、ある祖国を永久に。戦いを前にある兵士は寝ずの番。ある子供は眠ろうと努める。誰かが他の場所で洗礼を施す、誰かが次々に埋葬する。言葉がやむとき、演説が尽きるとき、アルコールと祭りが我々の救援にやってくる。過度の幸福あるいは大きな苦しみ、そしてあまりの恐怖とあまりにもばかげたこと。不条理は自らそうだとはいわない。それは自分を躍らせる。その時歌が始まる、沈黙を破って。言葉がとても足りない時、それがとても重苦しいとき、あるいは膨大である時、音楽家たちは前へ進む。そして歌が始まる、優しく貧しく尊大に。もはや言うことが無理な時、あるいは考えが及ばない時、一緒に存在するために歌が結集させる、ある収穫のために、ひとつの未来の予兆のために、死が必要とされる反乱のために、我々の聖人たちや我々の神に懇願するために。でも我々の嫌な運命を悲しんでも、空があまりにも広すぎるときには、それを埋め尽くさなければならぬ。夢に達したとき、人々がトロフィーを振りかざすとき、泣いて抱きしめ合う時、そして特に何も言わずに急流が引き返すとき、時がその流れを中断したとしても、行動も意見ももはや十分な力がないとき、その時歌が始まる、沈黙を破って。言葉がとても足りない時、それがとても重苦しいとき、あるいは膨大である時、音楽家たちは前へ進む。そして歌が始まる。そして人々は飲んで踊る。もはや言うことが無理な時、あるいは考えが及ばない時、まさに一緒に存在するために歌が我々を結集させる。我々の空洞の中で、我々の巡り合いの中で、我々の生活のブルーの中で、人々が愛するときも、震えるときまでも、人々は互いに似ているから、その時歌が飛び出す、そんな風に我々の希望が。もう少し価値あるものであるために、我々が見失ったと思えるものを取り戻すために、孤独にならないために歌が我々を結集させる。

[あらゆる不条理に道を見失ったとき、人々の心の空洞を埋める歌がやってくる。音楽家たちは言い尽くせないことを代弁する。歌が人間同士をつないで、幸せに向かって人々の心をつなげる]

Chanson pour L'Auvergnat オーヴェルニュ人に捧げる歌

ジョルジュ・ブラッサンス

この歌はあなたのためのもの。僕が寒く暮らしていたとき、気取らずに薪のいくつかの切れ端をただでくれたオーヴェルニュ人のあなた。男や女の田舎者たち、世間一般好意的な人達すべてが僕の鼻先でドアを開けた時、ただで僕にそうしてくれたあなた。薪の火なんて大したことないかもしれないけれど、それは僕の身体を温めてくれた。そして僕の魂の中にそれは今も燃えている、祝いのかがり火のように。オーヴェルニュ人のあなたに死が訪れても、葬儀人夫があなたを運んでいくとき、空を通り抜けて永遠なる父のもとにあなたが導かれますように。

この歌はあなたのも。僕が空腹で暮らしていたとき、気取らずにいくつかのパンをただでくれた女将さん。男や女の田舎者たち、世間一般好意的なすべての人達が、絶食している僕を笑いものにしていたとき、保存用のパン入れの箱を開けてくれたあなた。パンのかけらなんて大したことないかもしれないけれど、それは僕の身体を温めてくれた。そして僕の魂の中にそれは今も燃えている、大饗宴のように。女将さん、あなたに死が訪れても、葬儀人夫があなたを運んでいくとき、空を通り抜けて永遠なる父のもとにあなたが導かれますように。

この歌はあなたのためのもの。僕が憲兵に捕えられた時、気取らずに悲しげな様子で僕に微笑みかけてくれたあなた。男や女の田舎者たち、世間一般好意的なすべての人達が、連行される僕を笑ったとき、同調しなかったあなた。少しのやさしさなんて大したことないかもしれないけれど、それは僕の身体を温めてくれた。そして僕の魂の中にそれは今も燃えている、大きな太陽のように。異邦人のあなたに死が訪れても、葬儀人夫があなたを運んでいくとき、空を通り抜けて永遠なる父のもとにあなたが導かれますように。

[世間の流れに従って善人を気取って豊かに生きる人たちの表面だけの愛。パリに出稼ぎに来て苦勞して生きるオーヴェルニュ人たちの深い人間愛。それぞれの人生が終わるとき、真実の愛を持って生きた人たちにこそ神のご加護がありますように]

Couvre feu 外出禁止令

ジュリエット・グレコ

あなたの目の奥には涙。それなのに世界は崩壊するかもしれない。摩天楼にある日火がつき、津波が押し寄せるかもしれない。あなたの目の奥には涙。そして世界は震撼する。地平線は正に傾き、太陽はもう昇らないかもしれない。いいえ、いいえ、本当な何も変わっていない、いいえ、何も。決してある日色あせるべきではなかった。あなたの目の奥には涙。そして私は待ち望む。人々が停戦を宣言することを、血が流れることをやめるように。あなたの目の奥には涙。それなのに月が燃え上がるかもしれない。世界は「各自退避せよ」と大声で叫ぶ。私はこれほどあなたを愛したことはない。いいえ、いいえ、本当は何も変わっていない、いいえ、何も。決してある日色あせるべきではなかった。あなたの目の奥には涙。それなのに幾つかの爆弾が落ちるかもしれない。私はあなたが幸福だと感じることを望んでいる。あなたと私、そして世界中の人全員が。あなたの目の奥には涙。そして私はすすり泣く。もし人間たちが怪物だったら、ある日人々は彼らを許すことができるだろうか。

[愚かな人間の憎しみから生まれた戦いの炎が、平和に暮らしている多くの人々の幸せを奪い、豊かな地球の自然を破壊してしまう。もし相手が怪物であったなら、愛を奪うそのものを許しはしないだろう、何物にも代えがたい大切な愛を守るために]

Caro Mozart 哀しみのシンフォニー (親愛なるモーツァルト)

シルヴィ・ヴァルタン

この曲は空気を振動させる、そして一つの偉大な魔法に包み込む。私はその魅惑の世界に引き込まれる。あなたの空想の支配するところへ、甘美な響きのところへ。永遠なるあなたの曲、親愛なる人。大きな3本マストの帆船の帆の上を、あなたと一緒に遠く飛んでいく。青く澄んだ海の上、永遠に時のないところへ。そして私は終わることのない旅に出かけるように思う。そして私は飛ぶ、あなたと一緒に舞う。かつてない世界の中で。もし私の心が氷に覆われていて、どんな愛も見つけられなかったら、そして私が疎外感を感じる世界であなたのような世界を求めていたら、来て、私の手を取りに。そしてそのあとではるか彼方の別世界へ連れて行って。大きな3本マストの帆船の帆の上を、あなたと一緒に遠く飛んでいく。青く澄んだ海の上、永

遠に時のないところへ。親愛なるモーツァルト、あなたの曲を聴くとき私は全てを忘れる。すべての悲しみを、すべての苦しい思い出を、嫌な雨の日を、愛が終わったことを。そして望んでいる、望んでいる。それを望んでいる、私は望んでいる。私はあなたがそこにいることを望んでいる。そして私は飛ぶ、あなたと一緒に舞う。かつてない世界の中で。あなたの曲は空気を振動させる、そして一つの偉大な魔法に包み込む。私はその魅惑の世界に引き込まれる。あなたの空想の支配するところへ、甘美な響きのところへ。永遠なるあなたの曲、親愛なる人。

[モーツァルトは永遠なる神の子供。彼の音楽は天上の調べ。それは甘美な心地よいゆらぎ]

Brindisi 『椿姫』乾杯の歌

(A=アルフレード、V=ヴィオレッタ、C=合唱)

(A)飲み干そう、この喜ばしい杯を飲み干そう、美しい花のような人；東の間の短い時を陶酔で満たそう。愛が引き起こす喜ばしい甘い身震いの中で飲み干そう、私の心に絶大な力を持つその瞳のために飲み干そう、愛しい人、杯を交わせば愛はもっと熱い口づけを得るだろう。

(C)ああ、飲もう、杯を交わせば愛はもっと熱い口づけを得るだろう。

(V)あなた方と、あなた方と私の愉快な時を分かち合う；すべては狂っている。狂っているものはこの世の中で喜ばしくないもの。楽しみましょう。愛の悦楽ははかなく短いもの；咲いて枯れる花、余分に楽しむことはできないわ、楽しみましょう、私たちが誘っているわ、喜ばしい熱烈な口調が私たちが誘っている。

(C)ああ、楽しもう。杯とよく知る美しい賛歌と微笑みを。その時、その楽園の中で我々は新たな日を見出すだろう。

(V)生き甲斐は歓喜の中にある...

(A)もしまだ愛していない時なら...

(V)愛を知らないものに言わないで。

(A)これが私の運命だ。

(A&V)ああ、楽しもう。杯とよく知る美しい賛歌と微笑みを。その時、その楽園の中で我々は新たな日を見出すだろう。ああ！ああ！私たちがその日を見出す。ああ！ああ！私たちがその日を見出す。ああ、その通り。

(C)ああ、そうさ、楽しもう、楽しもう、楽しもう... 杯とよく知る美しい賛歌と微笑みを；楽しもう、楽しもう、楽しもう。そのとき、その楽園の中で我々は発見する、我々は新たな日を見出す、新しく、揺り動かす日を我々は発見する、我々は新しいものを発見する、新しい日を、そうさ、我々は発見する、我々は新たな日を見出す。

[乾杯は愛の世界の入り口、その奥にはどんな新たな愉しみが...]

PARLEZ-MOI D'AMOUR 聞かせてよ、愛の言葉を

リュシェンヌ・ボワイエ

私に愛を語って、繰り返し言って、愛情のこもった言葉の数々を。あなたの心地よい話を、私の心は何度聞いても疲れないわ。最高の言葉の数々をいつもあなたが繰り返し言ってくれさえすれば、私はあなたを愛するわ。あなたはよく御存じよね。私がどれも心底信じていないことを。けれどそれでも私はもっと私の大好きな言葉の数々を聞きたいの。震える囁きの愛撫するようなやさしい響きのあなたの声。その素敵な話は私をうっとりさせる。そして心ならずも私はそれを信じたくなってしまふ。それはとても心地よい。私の愛しい大切な人、少し常軌を逸していても、人生は往々にしてとても厳しいから、夢想だと思わなければ、悲しみはすぐに和らぐ。そして一つの口づけで立ち直れる。傷ついた気持ちは癒される。安心したひとつの誓いによって。

[あなたの確かな愛の言葉で、揺らぐ心を安心させて。愛されているという確信が欲しいの]

LE MARCHAND DE BONHEUR 幸福を売る男

シャンソンの友

私はさすらいの幸福売り。私は心の中を変えるいくつかの歌しか持っていない。あなた方は私が通り過ぎていくのを見る、誰もがそれぞれ順番に、軽やかな風に乗って、愛の心地よい風に乗って通り過ぎていくの。私は四季を持っている、キスを収穫するために、種をまき、ぶらぶら

と歩くために。私は秋と冬、空と海、春と夏を持っている、歌うために。あなた方は自分自身に苦勞をかける子供のように。自分に恋の苦勞をさせたり、自分を泣かせる苦勞をさせる。けれど私が良い時にやってくる。あなた方を苦しみから回復させるために、当然のように。私は四季を持っている。あなた方の涙を乾かし、あなた方の心の持ち方を変えてあげるために。私は安くしてあげる、すべての笑いに必要なものを。嘆き悲しむより、むしろ大いに笑うために必要なものを。私は見返りを求めない。私とその埋め合わせをすれば、私の道の上で、私と与えた喜びを見ること。私は四季を持っている。あなた方の涙を乾かし、あなた方の心の持ち方を変えてあげるために...

[私が運ぶ四季の移ろいがあなた方の涙を乾かす。時の流れが苦しみを和らげる。あなた方は自然の恵みの中で心の傷を回復させる。そして人の幸福を願える人は、自分の幸福も手に入れられる]

L'AMOUR C'EST POUR RIEN 恋心

エンリコ・マシアス

サラマンダーのように恋とは不思議なものだ。そして灰の中から甦る、火の鳥のように。誰にも抑えることはできない、それに人生を捧げることが。そしてどんなものにも消すことはできない、忘却以外には。恋、それは代償のないもの。あなたはそれを売ることができない。恋、それは交換できないもの。あなたはそれを買うことはできない。あなたの身体が目覚めるとき、あなたはおののきはじめる。けれどあなたの心が目覚めたら、あなたは夢を見始める。あなたは交わすことを夢見る、もう一人の人と愛の誓いを。何故ならその未来のおののきは、二人によってしか嘗めないから。恋、それは代償のないもの。あなたはそれを売ることができない。恋、それは交換できないもの。あなたはそれを買うことはできない。恋、それは希望。理由もなければ法律もない。恋、それは運のようなもの。それは能力ではない。地球上に一つの人間の心がある。熱烈にあなたを愛する人、あなたと交際もしていないのに、その人生を捧げる心積りのある人。恋、それは代償のないもの。あなたは手に取ることができない。恋、それは代償のないもの。けれどあなたはあなたを与えることができる。恋、それは代償のないもの...

[恋とは自分でコントロールできない不思議な感情。唯一できることは自分を与えることだけ]

Maladie d'amour 恋の病

ワサブロー

恋の病、青春の病。もし君が僕しか愛さないのなら、僕のすぐそばにいてください。恋の病、青春の病。もし君が僕しか愛さないのなら、僕のすぐそばにいてください。恋が軽いうちはそれはとてもきれいで素敵だ。けれどそれが強くなる時、気をつけなさい、わが友よ、それは葉陰の下に隠れている灰色の蛇みたいだから。それが眠っているときは特に起こしてはいけない。もしあなたが起こしたら締め付けるから。恋の病、青春の病。もし君が僕しか愛さないのなら、僕のすぐそばにいてください。恋が軽いうちはそれはとてもきれいで素敵だ。けれどそれが強くなる時、人生はどうにもなくなる。僕は灰色の蛇を探しに葉陰の下に行くだろう。何故なら恋はつらい。けれどそれは命と同じ。何故なら恋はつらい、けれどそれは天国。恋の病、青春の病。もし君が僕しか愛さないのなら、僕のすぐそばにいてください。それが眠っているときは特に起こしてはいけない。もしあなたが起こしたら締め付けるから。恋の病、青春の病。もし君が僕しか愛さないのなら、僕のすぐそばにいてください。恋の病、青春の病。もし君が僕しか愛さないのなら、僕のすぐそばにいてください。恋の病、青春の病。もし君が僕しか愛さないのなら、僕のすぐそばにいてください。

[ほのかな恋はうっとり夢見心地。けれどその虜になったら、楽しみと同時に苦しみが始まる。つらくても、それなしでは生きていけない。もし僕が唯一の人ならば、ずっとそばにいてください]

SI PETITE こんなに小さい

リュシェンヌ・ボワイエ

私はある日あなたの人生の中にやってきた、とても素直に。そしてあなたは私の魂の喜びを開花させた。魔法をかけたのはあなたの瞳なの。私は強制なしに文句なしにそのようにする。そして私は永遠にそのようにしないわけにはいかない。あなたの抱擁のもとであなたを熱愛する。

ああ！私はあなたの腕の中でとても小さく感じるわ。あなたに対してとても小さく。私の鼓動が速くなりすぎるとき、あなたはあなたの指の間でそれを開放することができる。私を動揺させる苦悩にあなたが気づくとき、あなたはそっと私を和らげてくれる。私はあなたの腕の中でとても小さいの。とても小さい。ああ、私の恋人。

私にはよくわかっているわ。私の宝物。あなたは心底私を愛してくれていると。それでも私は時々疑うことがあるの。とても心配していることがあるの。だから私は思っているの。別の愛があなたを奪ったら、ぐずぐずしないであなたに言うわ、そっと耳もとで。私の「あなたを離さない」という思いはとっても大きいよ、と。

[あなたの愛を失うことが怖い私は臆病な小さな存在。でも、もしその愛が離れそうになったら、取り戻すためのエネルギーはとっても大きいの]

ÇA C'EST PARIS サ・セ・パリ

ミスタンゲット

パリ、それはブロンド娘。彼女は全ての人から好かれている。反り返った鼻、無視したようにつんとした表情、それでも目は笑っている。彼女を知った人は皆その愛撫に酔い、立ち去っても常に戻ってくる、パリ、その愛に。パリの可愛い女性は人々がどのように言おうと、他の人たちの魅力と変わらない。そう、けれど彼女はうっとりさせることに、その尽くし方に精通している。彼女の身を捧げる方法は完璧に近い。そう、それがパリ。

[ちょっと澄ましているけれど人気のあるパリ。それは彼女が渾身の愛をくれるから]

Docteur Jekyll et Hyde ジキル博士とハイド氏

セルジュ・ゲンズブール

ハロー、Dr.ジキル。いや、私はジキル博士じゃない。ハロー、Dr.ジキル。いやいや、私はハイドだ、Mr.ハイドだ。ジキル博士は彼の心の中に悪魔の性質であるムッシュ・ハイドを持っていた。Mr.ハイドは何も言わなかったが、それでも尚こっそり考えていた。ハロー、Dr.ジキル。俺はジキル博士じゃないと言っているんだ。ハロー、Dr.ジキル。いやいや、俺はハイド、Mr.ハイドだ。ジキル博士の生活の中では、彼女からバカにされていた自分自身に劣等感を抱いてはいなかった。その心の中の Mr.ハイドは博士のためにそれをよく覚えておいた。ハロー、Dr.ジキル。ジキル博士はもういない。ハロー、Dr.ジキル。俺はハイドだ。Mr.ハイドだ。ジキル博士はある日理解した。彼女が彼の中で愛したのはムッシュ・ハイドだということを。その卑劣な Mr.ハイドがジキル博士を殺した。Dr.ジキル、Dr.ジキル。

[俺の中にも真面目はある。けれど世間が、女たちが愛したのは俺の真面目な内面ではなくて、ワルぶった表面だった。俺の中の大胆が、俺の中の冷静を葬った]

Mille Colombes 幸せの鳩

冬がそこにある、村の屋根の上に。空は白い。そして私は耳を傾ける。古いカトリック教会の中でパイプオルガンの拍子の響きに合わせた子どもたちの合唱に。これからの幾万年のために世界に平和があるように、千羽の鳩を私たちにお与えください。あらゆる日の出に、私たちにお与えください、千羽の鳩を。そして百万羽のツバメを。どんな人間も子供に立ち返る道を開くように、明日、それは私たち。そして明日にはより多くの戦争はもはやない。明日、いたるところで、大砲は花の下で眠るだろう。美しい世界は、人々が恐怖なしに生きるところの世界にある。

[誰もが子供の頃の純粋な気持ちに立ち返れたら、戦いは止み、世界はもっと美しくなれるだろう]

MAMAN LA PLUS BELLE DU MONDE 世界一きれいなママ

ルイス・マリアーノ

ママン、世界で一番美しいのはあなたです。あなたより美しい人は誰もいない。僕にとってのあなたは不思議にも楽園の天使のよう。すべての僕の旅の中で、僕は様々な景色を見た。けれどあなたの美しいグレーの髪の毛の印象に匹敵するものは何もない。世界で一番美しいのはママン、あなたです。そして僕の喜びが深まるのは、僕の腕が、ママン、あなたの腕の中にある時。ママン、

世界で一番美しいのはあなたです。それというのもあなたの目の中には多くの愛があふれているから。あなたにとって僕は、僕の年齢に関わらず、日々幸福なおとなしい子供であることに変わりはない。僕は憧れではなく、誰かが僕を愛してくれることを夢見ていた。けれどそれらの夢は終わり、残ったのはあなただけ。世界で一番美しいのは、ママン、あなたです。そして僕をめぐり一切が無に帰したときも、ママン、あなたはそこにいてくれる。

[世界で一番美しいのは、わが子を思う欲得のない母親の愛情]

SI TU T'IMAGINES そのつもりでも

ジュリエット・グレコ

娘さん、恋の季節がいつまでも続くと思っても、それはあなたの勘違い。あなたは可愛いつもりでもバラ色の顔色、くびれた細い腰、愛らしく引き締まった二の腕、エナメルや七宝のように光沢のある爪、妖精のような軽やかな足取りがいつまでも続くと思っても、それはあなたの勘違い。美しい日々、祭りのような日々、太陽と惑星もあらゆるものはグルグルと回っている。でも可愛いあなたはまっすぐに歩いている、あなたの想像もつかない方へ。とても密かに近寄ってきては素早くできるシワ、重たい脂肪、三重アゴ、たるんだ筋肉。さあ、摘みなさい、人生のバラの花を。すべての幸せがあなた自身の中で海のように広がるように。さあ、摘んで、摘みなさい。もしそうしなかったら、それはあなたの勘違い。娘さん、それはあなたの思い違いよ。

[ある日気がつくとき衰えた自分に愕然。エイジングケアも限度がある。早く幸せを摘みなさい]

d'Allemagne ダルマーニュ

パトリシア・カース

私がヴァカンスで雨の音を聞いているドイツは、静寂の中にロックが聞こえるドイツは、私の向かい合う思い出があるところ。レーニン広場とアナートル・フランスという私の少女時代の思い出があるところ。ドイツでは過去の歴史がひとつの毀損を抱えている。ドイツでは未来はある冒険の中にある。ドイツでは私は車両進入禁止地区を知っている。私は銃が眠っているのを知っている。私は寛大な処置が止むところを知っている。さようなら、リリー・マルレーン。私に再び語って、ゲッティンゲンのいくつかのバラ色を。それは私をもう一つのドイツへ連れて行ってくれる。ハト（穏健派）とタカ（強硬派）が壁のどちら側からも離れる時代へ、あなたを安心させる国境へ。ドイツで私は誠実な愛の出来事を得た。私はアポリネールの音楽の上で舞う。ロマン主義が激しいドイツでは、ヴァイオリンは相変わらず緩やかに奏でている、いつものウインナー・ワルツを。【私は一つの小さな野生の花を持っている。あるフラマン人の女性とある民族の男性との間の】ドイツから私は心の中に一つの小さな花をもらった。それは幸福の観念として生きている。それは一本の木のように成長している。

[私にはフランスとドイツの血が流れている。それは融合して成長している、戦いを忘れて]

NATHALIE ナタリー

ジルベール・ベコー

誰もいない赤の広場、私の前をナタリーが歩いていた。可愛い名前の私のガイド、ナタリー。赤の広場が白くなった、雪が敷き詰められて。そして私とその寒い日曜日の中を後に付いて行った、ナタリー。彼女は簡潔な言葉で話した、十月革命について。私はすでに考えていた、レーニンの墓に次いで。私たちはカフェ・プーシキンに行く。味わう... 一杯のショコラ。誰もいない赤の広場。私は彼女のその腕を取った。彼女はほほえんだ。ブロンドの髪だった私のガイド、ナタリー... ナタリー... その部屋の中で... 大学の、ある学生の集団が期待して待ちかねていた。私は笑い、大いに話した。彼らはあらゆることを知りたがった。通訳したナタリー... モスクワ、ウクライナの平原、そしてシャンゼリゼ。私たちはすっかり融合して歌った。そして次に彼らは栓を抜いた、嬉しそうに早々とフランスのシャンパンの栓を。そして人々は踊った。そして仲間たち全員が立ち去って部屋が空になった時、私一人だけが残った。私のガイド、ナタリーとともに。そして飾り気のない話も、十月革命の話もない。私たちは最早そこに達することはなかった。レーニンの墓は終わった。プーシキンの店のショコラ。そ... それは遠くにあった... すでに、

空しく思われた私の人生。しかし私はパリでいつかできる。彼女のためにガイドの役割を務めるのは私だ。ナタリー... ナタリー。

[赤の広場は純白で埋め尽くされた。心の触れ合いを持った今の私たちには、戦いはもう遠い出来事。今あるのは愛。ナタリーが美しい自国を案内してくれたように、私も素晴らしい自国を案内しよう、愛しい彼女のために]

SOUS LES TOITS DE PARIS パリの屋根の下

2種類の歌詞

- ① 彼女が二十歳になったある日、年老いた母親がやさしく言った。我が家ではあなたを育てるためにお金が足りなくて時々苦勞したけれど、毎日のあなたを十分理解することができた。それは幸福よ、愛しい子よ。パリの屋根の下の私の可愛いニニ。私たちは仲良く幸せに暮らしている。私たちは皆この世で一人きり。私たちは気付いていないけれど、もう少し近づいて、このようにほら！あなたが私を好きなだけで、私は何も要らない。母親のそばであなたは何の心配もない。そのように心を開いて、人々は気楽に、パリの屋根の下で幸福を集める。
- ② パリの屋根の下に僕の可愛いニニがいる。人々は仲良く幸福に暮らしている。人々は皆この世で一人きり。誰も気づいていないけれど、僕たちは少し近づいて、ほら！君が僕を愛してくれるだけで、僕は何も要らない。君は母親のそばで何の苦勞もないね。そんな風に心を開いて、パリの屋根の下で幸福を摘む。パリの屋根の下、僕の部屋に僕のニニがいる。僕たちが愛し合い、結ばれることは素敵さ。二十歳になって春の花が咲いたら、一刻も無駄にしないで愛し合わなければ。空気は澄みきって空は青い。彼女は「私はそう望まないわ」と言ったが、それからほどなく彼女自身を与えてしまった。この日、そういうわけでパリの空の下の勝利者は、いつものように「愛」だった。

[パリの青い屋根の下では、親子であろうと恋人であろうと、幸せな愛の生活がある]

PETIT PAPA NOËL プティ・パパ・ノエル (サンタクロースさん)

【クリスマスの美しい夜、雪がその白いマントを広げると、空のあたりを見上げ、小さな子供たちはひざまづいて、臉を閉じる前に最後のお祈りをする】

サンタクロースさん、あなたがたくさんおもちゃを持って空から降りてくるとき。僕の小さな靴を忘れないでね。ところで出発する前にたくさん着こまなければいけないよ、外に出てたとえ寒くても、僕のためにほんの少しの間だからね。僕が夢の中で思い描いている最高のおもちゃをあなたが届けてくれるかどうか見るために、夜の明けるのがとても待ち遠しい。サンタクロースさん、あなたがたくさんおもちゃを持って空から降りてくるとき、僕の小さな靴を忘れないでね。

【ほ～ら、眠くなった。子供たちはねんねして、あなたは始めることができる。背中に袋を担いで、カトリック教会の鐘楼の音に合わせて、あなたに分配された贈り物の配達を。そしてあなたが美しい雲の上にいるとき、まず私たちの家に現れて。私は毎日すべてが賢明であったわけではなく、私は許しを請う】

サンタクロースさん、あなたがたくさんおもちゃを持って空から降りてくるとき。僕の小さな靴を忘れないでね。サンタクロースさん。

[神様からのプレゼントを心待ちにする子供たち。懺悔をする大人たち。幸せに感謝することができるひとときが、最高のプレゼントかもしれない]

Noëls d'autrefois 昔のクリスマス

シャルル・アズナヴール

私は都会から離れたところのクリスマスを経験している。そこでは人々は枝付燭台を手に持って楽しそうに出かけた。それは飛行機もなく、自動車もなかった頃のこと。私たちは道々で寒さにさいなまれた。カトリック教会全体がローソクの灯りに照らされていて、キリスト教徒の深夜ミサの間の沈黙に動揺した。それというのも私たちは聖処女（マリア様）に祈る大勢として訪れたから。それは劇場に行くより望ましいことだったし、無料だった。昔のクリスマスー私たちは一つの精神を持っていた。何かは解らないある感性。昔のクリスマス。私たちは家に帰ると、正

式なクリスマスの祝祭の食事を作った。母は調理をし、私は皿を洗い、父はパイ生地を練っていた。ひとつの豚肉と5つか6つの鶏肉を串に刺した。ローソクと銀紙で飾られた素晴らしい樅の木が鎮座する部屋の中で、テーブルの高さに顎をつけるために、たくさんの子供たちが腰掛けの上に這い上がった。昔のクリスマスー私たちは一つの精神を持っていた。何かは解らないある感性。昔のクリスマス。今では私たちはプラスチック製の樅の木を持っている。雪はスプレーで製造され、ローソクは電球にとってかわられ、ケーキ（ビュッシュ・ド・ノエル）は菓子屋から直販される。ミサは全部ラジオとT.V.で中継放送され、もはや自ら出かける必要はなくなった。私たちはカトリック教会の生放送の大司教に接見できるし、眠くなつたときはスイッチを回せばよい。昔のクリスマスー私の子供時代のクリスマス。その言葉の中に保たれている、昔のクリスマス。

[文明の発達の中で身近に手軽に手に入る満足。でも物がなかった時代は、人の心に今よりも神聖な灯りが点っていたように思う。機械的画一ではなく、個性あふれる人間同士のふれ合いの中で]

GARDE-MOI LA DERNIERE DANSE ラストダンスは私と

マヤ・カサビアンカ

踊っていらっしやい、あなたが望むどんなダンスでも。あなたが遠くへ導く彼女たちの腕の中で。微笑んでいらっしやい、最高の笑顔で。あなたが手を取っているパートナーたちのために。けれどあなたは今晚私の家に一緒に行くのだということを忘れないで、最後のダンスは私のために残しておいてね。時々ワインよりも強くあなたの記憶を失くさせることが繰り返される。歌って、そして笑ってちょうだい。でもお願い、どんなパートナーたちにもあなたの心は取られないでね。そしてあなたは今晚私の家に一緒に行くのだということを忘れないで、最後のダンスは私のために残しておいてね。わかってちょうだい、愛しい人、私はあなたをとっても愛しているの。そして私の願いは一つだけ。それはある日あなたが去らないようにということ。私たちの愛はあまりにも美しいわ。踊っていらっしやい、楽しんでちょうだい。私は私たちが帰宅する順番を待っているわ。もし誰かがあなたを家まで連れて行こうとしたら、彼女にきっぱり断ってね。いずれにしてもあなたは今晚私の家に一緒に行くのだということを忘れないで、最後のダンスは私のために残しておいてね。そう、あなたの腕の中に今晚私を抱きしめてくれるということを忘れないで、最後のダンスは私のために残しておいてね。

[モテるあなた。大勢とダンスを楽しんでもいいけれど、私が本命だって絶対忘れないでね]

TOMBE LA NEIGE 雪が降る

サルバトーレ・アダモ

雪が降る。今夜君は来ないだろう。雪が降る。そして僕の心は憂鬱に覆われる。すべて白い涙でできたその柔らかな供の一団、枝の上で鳥が魔法を嘆く。今夜君は来ないだろう。僕の落胆が僕を叱責する。けれど雪は降る。無情な手口だ。La...Hum...雪は降る。今夜君は来ないだろう、雪は降る。すべてが絶望の白だ。みじめな確信、寒さと不在、その耐え難い静寂、白い孤独。今夜君は来ないだろう。僕の落胆が僕を叱責する。けれど雪は降る。無情な手口だ。La...Hum...僕の心の憂鬱のお供をするように絹のように柔らかな、まるで涙の粒のような白い雪が列をなして一団となって空から舞い降りてくる。女性の魔術にはまった僕を枝の上の鳥が悼む。ガッカリしながら僕は心の中で甘言に乗ったなど自らを叱る。反省しているにもかかわらず無情にも冷たい雪は降りやまず、しんと降っている。いくら待っても君は来ないだろう。すべてが絶望的に真っ白一空虚だ。君が来ないと確信するなんてみじめなものだ。雪のつめたさと君がいないこと、その空虚感と言ったら... まさに真っ白な孤独だ。

[彼女は本気じゃなかった。ガッカリしつつも立ち去れない空しさに雪は容赦なく降りつける]

La bohème ラ・ボエーム

シャルル・アズナヴール

二十歳にも満たない君たちには体験できない時代の話をしよう。その当時のモンマルトルは、僕たちの窓辺までリラの花が絡みついていた。おまけに僕たちが選んだ住まいは、みすばらしい家具付きの見栄えのしないところで、そこで僕たちは知り合った。僕は食うにも事欠いて、君は

裸でポーズをとっていた。芸術家の自由な暮らしーラ・ボエム。それは僕たちが幸せだということの意味する。芸術家の自由な暮らしーラ・ボエム。僕たちは1日おきにしか飯を食べなかった。

近くのカフェで僕たちは栄光を待ちながら、いっばしの人物気取りだった。そして空腹で貧しいにもかかわらず、僕たちはいつもその栄光を思い描いていた。そしてあるビストロではいつも、温かい食事と引き換えにキャンバスを取り出した。僕たちは詩を暗唱した。ストーブを囲んで集まり、冬の寒さを忘れて。芸術家の自由な暮らしーラ・ボエム。それは君が美しいということの意味する。芸術家の自由な暮らしーラ・ボエム。僕たちは皆天才だった。

しばしば僕は思い付くとイーゼルを前にした。夜が更けてキャンバスを白く塗りなおして、胸の線や腰の輪郭のデッサンを手直した。一杯のカフェ・クレームを前に腰かけたのは結局夜明け前だった。疲れ切っていたが、うっとりして、二人には愛し合うことが必要だった。そして人生を愛することも。芸術家の自由な暮らしーラ・ボエム。それは二人が二十歳だということの意味する。僕たちは時代の流れに乗って生きていた。

ある日、気の赴くままに僕は昔の住所の周辺を訪ねてみた。僕の青春時代を知っていた壁も通りも、もうわからなくなっていた。最上階のアトリエを探したが、何も残っていなかった。

その新しい装飾の中で、モンマルトルは悲しげに見える。リラの花はもうなくなっていた。芸術家の自由な暮らしーラ・ボエム。僕たちは若かった。僕たちは熱中していた。芸術家の自由な暮らしーラ・ボエム。それはもう何も意味しない。

[未来を夢見て熱く語り合うことは若さの特権だった。あの頃の夢も風景も、若さもすでに遠い幻]

QUAND REFLEURIRONT LES LILAS BLANCS リラの花咲くころ

クリスチャン・ボレル

白いリラが再び咲くとき、心惑わす言葉が繰り返される。魅了された女性たちはしてしまう。ばかげたことに酔わせる春の影響を受けて！白いリラが再び咲くとき、すべての誓いを聞き入れてしまう、何故なら浮かれた恋に頭を狂わせてしまうから、白いリラが再び咲くときには。春、春！それは森の中を待ち焦がれるあなた；そこは幸せな恋人たちが二人で出かけていくところ、それは愛情をこめて恍惚とさせるあなた、私が熱愛するその人。春、私は待つ、私の腕の中に抱くためにリラが手助けしてくれるのを。白いリラが再び咲くとき、心惑わす言葉が繰り返される。魅了された女性たちはしてしまう。ばかげたことに酔わせる春の影響を受けて！何故なら浮かれた恋に頭を狂わせてしまうから、白いリラが再び咲くときには！

[春は恋も満開。リラの香りの妙薬は、自信のない恋を後押ししてくれる。大胆全開]

MON HOMME 私のいい人

この地上で私のただ一つの喜び、唯一の幸せ、それは私の男。私の持っているすべてを、私の愛と私の心のすべてを捧げている、私の男。夜さえも私が夢見るとき、それは彼、私の男。ハンサムでも金持ちでも逞しくもないけれど、私は愚かなほど彼を愛している。彼は私をぶつし、私のお金を取る。もう限界にも拘らず全くどうしようもない。頭が狂っているみたいに私は彼に夢中なの。彼が近づいてきたらもうおしまい。私は彼のもの。彼に見つめられたら私は彼の思い通り。私はとても彼に夢中なの。彼がひとこと言うや否や、彼は私をメチャクチャに、全く台無しに、卑しくさせてしまう。だって私はただの女でしかない。しかも私は彼にとっても夢中なの。

[どうしてこんな男が好き？わかっていても理屈通りに、理想通りにいかないのが変... いや、恋]

MON COEUR EST UN VIOLIN 私の心はヴァイオリン

イヴェット・ジロー

私の心はヴァイオリン。あなたのその弓の奏でるままに震えるの。あなたの演奏を強調し、ある時は生き生きと陽気な調べで、夢中で繰り返すかのように、ある時は憂鬱を引きずった疲れた音色で。夜が終わると私の心はあなたのことで一杯。音楽ははかない夢。それはあなたの指の下で震える。優しく触れるあなたの指の下で、私の思いは激しく募り、酔いしれ、和音の終わりに消えていく。私の心はヴァイオリン。あなたのその弓の奏でるままに震えるの。あなたの演奏を強調し、ある時は生き生きと陽気な調べで、夢中で繰り返すかのように、ある時は憂鬱を引きず

った疲れた音色で。そして調和して生きている。私の心はヴァイオリン。
[私はあなたが弾く通りの調べを奏でる。その心地よい音色は夜が終わると消えるはかない夢]

Je Hais Les Dimanches 私は日曜が嫌い

ジュリエット・グレコ

一週間毎日が空しくうつろに響く。けれど週のうちに最悪なのは気取った日曜日だ。バラ色のように思われたくて、気前よく遊ぶことを至福の一日として自分に課する日曜日。私は日曜が嫌い、私は日曜が嫌い。通りには大勢の人々、多数の通行人、無頓着な気配を漂わせて流れていくその群衆、葬列のように歩いていくその人波。ずっと前から生気のない日曜日の葬列。私は日曜が嫌い、私は日曜が嫌い。あなたは一週間すべて、日曜日も働いている。私の偏見はきっとそのためだわ。ただ単に最愛のあなたが私のそばにいてくれれば、私は嫌いなものすべて好きになれるのに。前日の不安を輝きで消し去ってしまう太陽に完全に守られている春の日曜日、青空と子供たちの笑いに満ちた日曜日。恥ずかしそうに愛の誓いを交わす恋人たちが散歩する。そして枝には花が、枝には花が。そして雑踏の中で、急き立てることもなく通りを横切っていく人々。私たちは二人で手に手を取って滑り込んでいく、唯一の希望も持てない明日があるということを知ろうともせず。日曜日以外に、日曜日以外に。人々が伝統主義の人と思っているすべての律儀な人達、本当はそうではないのに人々に信頼されたくて教会へ行くその人たち、何故なら習慣だから。そしてシャツを着替えて晴れ着を着る。何の支障もないから 24 時間活動しない人たち、釣りへ行くために早起きする人たち、その日は墓参りに行くことになっている人たち、そして何もすることがないから愛し合う人達。彼らはその実、私たちの幸せを羨むだろう。私が日曜日を憎んでいるときに、日曜日を好み、日曜日に恵まれ、日曜日を信じる彼らを私が羨むのと全く同様に。

[世間一般の幸せ時間とすれ違う生活。わかっているけども平凡な生活の日曜休日に憧れる]

Je suis comme Je suis 私は私

ジュリエット・グレコ

私は私。私はこんな風にできているの。笑いたいときは、ええ、大声で笑うわ。私は私を愛してくれる人が好きなの。たとえそれが私の間違いだとしても。私の好きなものが毎回同じでないとしても、私は私。私はそのようにできているの。これ以上どうしようというの。私をどうしようというの。私は気に入られるようにできているの。そして替えられるものは何もないわ。私のヒールは高すぎる、私の腰は反り返り過ぎている、私のバストは美しく硬すぎる、そして私のアイラインは濃すぎる。だからどうしたというの。それがあなたにどんな関係があるというの。私は私、私の好きなように振る舞うの。それがあなたにどんな関係があるというの。私が私に起こすこと。ええ、私はある人たちを愛し、そう、ある人たちは私を愛する。自分自身を好んでいる子供のように。素直に、愛して、愛して、愛する…。どうして私に問うの。私はあなたに気に入られるようにできているの。替えられるものは何もないわ。

[人と違うことを罪悪のように言う人々。でも自分らしさが自分の人生。自分に正直に生きる]